

平成22年度

優秀賞

平成22年度障害者雇用職場改善好事例

サービス業

ちょっとした工夫が
効果的な改善につながる

有限会社 化成フロンティアサービス（福岡県北九州市）

取り組みの紹介
一覧

1. データ入力業務で書見台を製作
2. 社内便の集配作業で領収書を改善
3. 社内便の集配作業で紐掛け機を導入
4. 社内便の集配作業で社有車のハンドルを改善
5. ペアで集配作業を行う

事業主の声

人間の集団として誇れる事業所として、企業の理念である、一隅を照らす＝従業員一人ひとりを大切にするという意味の「一燈照隅」の実践に取り組んでいます。また、事業所内活動だけでなくさまざまな職業能力開発の講師や福祉の相談員の派遣等地域への貢献活動にも取り組んでいます。見学者も数多く受け入れていますので、是非見学にいらしてください。



(左から) 安田篤 企画管理部企画グループグループマネージャー、佐藤健一 常務取締役、企画管理部 高橋好彦さん

事業所の概要

障害者の一層の雇用促進を図り、企業としての社会的責任を果たすとともに、一人ひとりが生き活きと働ける職場づくりを実現するために、三菱化学株式会社（当時三菱化成株式会社）の特例子会社（県内では初の親会社による全額出資）として平成5年3月に設立し、同年12月から営業を開始。

「障害者の一層の雇用促進を図り、企業としての社会的責任を果たすとともに、一人ひとりが生き活きと働ける職場づくりを実現する」目標を達成するために、「会社と従業員は運命共同体」という従業員観を頂点に据え、「すべての従業員が働きやすい職場環境づくり」を基本的な考え方として取り組んでいる。

上肢障害者雇用状況

■ 従業員数 123名
上肢障害者雇用数…………… 28名

主な事業内容

- ①情報処理サービス（データ入力、データ加工・処理、ワープロ文書作成、ホームページ作成等）
- ②印刷全般（企画、デザイン、印刷：名刺やハガキから一般印刷まで）
- ③親会社からの受託業務（社内便集配、浴場管理、制服クリーニング等）

上肢障害者雇用の経緯

特例子会社として設立後、事業の拡大とともに、障害の種別に関係なく、業務に適した障害者を特別支援学校や職業能力開発校等からの職場実習を経てハローワークを通じて採用し現在に至っている。

結果として上肢に障害のある肢体不自由者の雇用者数は雇用障害者82名のうち28名（うち重度障害者22名）となっている。

改善策 1

データ入力業務で 書見台を製作

治具製作
ポイント

データ入力
作業内容

課題点

テクニカル部門にて勤務する西和平さんはデータ入力作業に従事しているが、腕を伸ばせる範囲が狭く、肩から上に腕を上げることが困難であるため、原稿をめくることに時間がかかり作業効率が上がらない状況であった。

改善内容

身体の真正面にあるキーボードの上で原稿を見ることができ、自由に置き場所が変更される書見台を作成した。

改善の効果

キーボードのテンキーで入力する際に腕の稼働範囲内でスムーズに原稿をめくることができるようになったことで、作業スピードが向上し、また手の負担も軽減された。



従業員の声

西 和平さん

入力作業では、最初は脇に置いた書類に手が伸びにくく時間がかかりましたが、書見台ができてからは作業時間が5～10分短くなり、作業効率が上がりました。

改善策 2

社内便の集配作業で 領収書を改善

書類変更
ポイント

領収書記載
作業内容

課題点

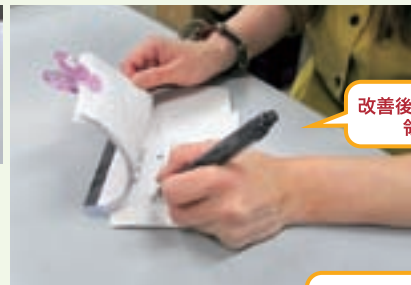
メール・写真部門にて勤務する公山由美さんは、集配時に発行する領収書を1日平均20枚弱記載しているが、右上肢に障害があるため左手で記載するにあたって、領収書が左綴じ（横開き）であるため、手が綴じ位置に当たり記載しにくい状況であった。また、お客さんをその場で待たせているためプレッシャーも感じていた。

改善内容

社内で作成している領収書を上綴じのものに変更した。

改善の効果

領収書の手に当たる部分が平坦になったため、筆記に余計な負担がかからなくなった。領収書の形態を変えただけの簡単な改善であるが、公山さんは日に何度も領収書に記載するため、大幅な負担軽減となるとともに、お客さんを待たせる時間も短縮されたため心的負担も軽減された。



従業員の声

公山 由美さん

領収書の綴じ位置を変えることで書く時間が短くなり、お客さんを待たせるプレッシャーが無くなりました。

改善策

3

社内便の集配作業で
紐掛け機を導入

課題点

メール・写真部門にて勤務する友瀬隆さんは、集配係として倉庫や門等20ヵ所ほどへの集配を日に4回行っているが、右上肢に障害があり荷物の持ち運びは左手のみで行わざるを得ないため、大きな荷物を持ち上げることが困難であり、周囲の従業員の手助けが必要であった。



改善内容

荷物を荷台に載せ紐をスロットへ差し込むだけで荷物に紐が巻ける機械(紐掛け機)を導入した。



改善の効果

紐掛け機で巻いた紐を持つことにより、左手のみで容易に持ち運ぶことが可能となった。

補助機器
購入

ポイント

集配

作業内容



改善前の友瀬さんの運搬状況



導入した紐掛け機

紐をスロットに差し込むだけで
紐が掛かる紐を掛けた荷物を
運搬する友瀬さん

改善策

4

社内便の集配作業で
社有車のハンドルを改善

課題点

友瀬さんが集配を行うにあたって、社有車を運転する際には左手のみのハンドル操作が困難な状況であった。



改善内容

左手のみでも容易にハンドルが回せるよう、市販の旋回装置を取り付けた。なお、集配において上下肢障害のある従業員が社有車を運転するにあたり、手でアクセルとブレーキ操作ができるよう改造している。



改善の効果

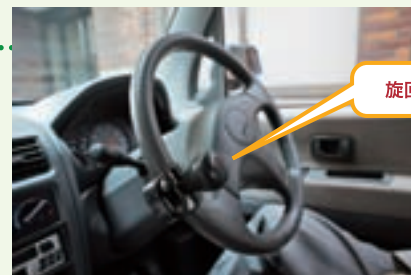
左手のみでのハンドル操作が容易となり、安全性も向上した。

補助具
購入

ポイント

集配

作業内容



旋回装置

手動のアクセルと
ブレーキ



改善策 5 ペアで集配作業を行う

課題点

右上肢に障害がある友瀬さんが単独で集配するにあたっては、重量物の運搬が困難であるばかりでなく、階段の昇降でバランスを崩すといった危険性もうかがわれた。また1回当たり1時間程度の運搬において、荷物を抱える状態での運搬には身体全体の負荷もかかっていた。

改善内容

身体の丈夫な知的障害のある従業員とペアを組んで集配業務を行う体制に変更した。友瀬さんのペアを含めて4グループを設けた。上肢障害のある従業員は運転を中心に行い、知的障害のある従業員は荷物運搬を中心に行っている。友瀬さんは原広さんとペアを組んで集配しているが、2人とも責任をもって自分の業務に従事している。

改善の効果

人件費はかかったが、障害特性にあった役割分担で作業ができるようになり、上肢障害のある従業員の職域を拡大することができた。



従業員の声

紐掛け機の導入や、社有車の改造、原さんとのペアにより、片手に障害があっても集配作業がスムーズにできるようになりました。

友瀬 隆さん (写真右)



友瀬さんと一緒に集配を頑張っています。

原 広和さん (写真左)

改善の取り組みについて

改善の取り組みは、本人、周囲の従業員、上司により、その都度、各部門の従業員で構成され、社内の安全活動を推進するRC(レスポンスブル・ケア)推進委員会に課題を提起している。あげられた課題は同委員会において改善策を検討、必要に応じ治具を製作している。

このような改善の取り組みにより、障害のある従業員が「職場の一員として貢献している」意識が強まることも大きな効果と言える。



企業モットーを掲示

